

デュアルSIM

JJ1SXA/池

デュアルSIMとは、1台のスマホにSIMカードを2枚挿入して利用できる機能のことで、通常は、スマホ1台につき1枚のSIMカードを差し込んで利用するが、デュアルSIMは2枚差し込めるため、1台で2台持ち同様の使い分けができるようだ、まあ、リタイアでサンデー毎日の身には、全く必要の無い使い方だ、然し、新し物好きの私には、大変興味ありで、少し勉強することにする。

デュアルSIMに対応したスマホは、SIMカードを挿入する場所が2つある、最近では、iPhone11、12シリーズ以降など、スマホ本体とSIMが一体化したeSIMとSIMカード組み合わせのデュアルSIM対応スマホもあるようです。

デュアルSIMで通話特化型のプランとデータ特化型プランを組み合わせることができる、SIMカードごとに通話とデータで料金プランを分け、自分の目的に合った安価な料金プランを組み合わせることで、携帯電話料金を節約できる可能性がある、たとえば、無料通話プランと無制限のデータ通信プランの組み合わせを、異なる携帯電話会社で契約して利用することが可能。

仕事で頻繁に通話を使用する回線、プライベートで主にデータ通信を使う回線を組み合わせたり、異なる携帯電話会社と契約することができるため、なんらかの理由で通信障害が発生した時も、もう一方の携帯電話会社の回線を利用することができる。

通信障害は突如として発生する場合があるので、万が一に備えるためにも、複数キャリアの回線を持つことがお薦めとのこと。

海外でスマホを使用する場合、国際ローミングでは通信料金が高額になってしまうケースもあり、そのため海外旅行用のモバイルWi-Fiをレンタルする人も多いようだ、デュアルSIM対応のスマホの場合、普段利用しているSIMカードの他にもう1枚SIMカードを挿せるため、渡航先で旅行者向けに販売されているプリペイドタイプのSIMカードを挿して利用することができるようが(スマホによって対応の携帯電話会社が異なる場合があるため、注意が必要です)

また、2つのSIMが利用できるのも、旅行中にSMSや電話は国際ローミングしたSIMで行い、データ通信は現地で入手したSIMで行うフレキシブルな使い方も可能だ。

スマホの種類にもよりますが、多くのデュアルSIM対応スマホはSIMトレイの片側はnano SIMカード専用、もう片側はnano SIMカードまたはmicroSDカードを挿入できるようになっている、省スペース化されたデュアルSIM対応スマホの場合、2枚のSIMカードを挿入装着するとmicroSDカードが利用できなくなり、スマホに大量のデータを保存したい場合は困ることがある。

スマホによってはSIMカードトレイに2つのSIMスロットとは別にSDカードスロットを備えたタイプや、SIMカードトレイとSDカードスロットが異なる場所に設置されているタイプ、SIMの片方はeSIMになっているタイプもあるようだ。

デュアルSIMは通常のSIMカードが1枚の状態と比較して、バッテリー消費が早くなるケースがある、原因は複数あるが、その一つが「セルスタンバイ」と呼ばれる問題だ、セルス

タンバイとはAndroidのスマホに搭載されているAndroidOSに備わっている機能で、受信している電波の状況が悪くなったり回線が切断されたりした時、最寄りの基地局の電波を探して再度回線を接続します。

このセルスタンバイ状態では、スマホを使っていなくても電波を探して活発に稼働している状態になるため、通常時よりもバッテリーを多く消費してしまう、そのため、スマホを2台持たなくて良くなるものの、バッテリー消費が大きくなる可能性があるため、外出時には充電器やモバイルバッテリーを持ち歩いた方が良くいかも知れませんかと言われている。

デュアルSIMのスマホに限らず、SIMフリーのスマホ(携帯電話会社が他社のSIMカードを使えないようロックした設定を解除したスマホのこと)全般に言えることだが、携帯電話会社の組み合わせによっては、利用できないケースがあるようです。

デュアルSIMには、スマホが2つのSIMをどのように認識するかによって、4つの種類(方式)がある。

DSSS方式は、2つのSIMを挿入できるが、どちらか片方のSIMだけを有効にすることができ、有効にしているSIMに紐づいた電話番号でのみ電話を受けられる、利用するSIMはスマホを操作してその都度手動で切り替えなければならず、有効になっていないSIMは着信を受けることもデータ通信を行うこともできません。

DSDS方式は、SIMを切り替える必要が無く、どちらのSIMに紐づく電話番号に着信があっても電話を受けることが可能な方式で、片方のSIMで通信を行っている間、もう片方のSIMで電話の着信を受けることができますが、通話が始まると通信はできなくなり、2つのSIMで同時に通話することはできない。

DSDV方式は、DSDSより高性能として登場した、SIMの切り替え無くどちらのSIMでも紐づく電話番号への着信を受けることができることや、通話が始まると通信ができなくなる点、2つのSIMで同時に通話ができない点はDSDSと同様だが、両方のSIMが4Gで利用できるため、データ通信が安定して高速で利用でき、プランのデータ通信容量を無駄なく活用できるメリットがあるようだ。

DSDA方式は、現在のデュアルSIMの方式では一番高性能だ、2枚のSIMが常時使えるので同時に電話の待ち受けができたり、同時にデータ通信ができたりするので、通話しながら別のSIMでデータ通信が行える。

SIMを切り替える必要が無く、どちらのSIMに紐づく電話番号に着信があっても電話を受けることが可能で、片方のSIMで通話しながら、もう片方のSIMでデータ通信を行えるため、スピーカーで通話中にデータ通信プランに特化しているSIMで動画を見たり、大容量のデータをダウンロードしたりすることもできる。

デュアルSIMのメリットを活かすにはこのDSDAの方式に対応しているスマホを選択する

のがお薦めようだが、現在対応しているスマホはまだ少ないようだ。

いやいや、世の中大変なことになっていると、目を丸くしていたら、更なる上位機種というか上位の使用方法として、SIMカードが3枚使用できる機種も出てきた、トリプルSIMで、別々の大手キャリア3社との3回戦契約なら、通信障害、自然災害等で通信障害が起きても、流石に3回線全て同時にダウンは無いだらうから、通信が確保できる確率は格段に上がることでしょ。

SIMカード3枚のトリプルSIM運用によって、下記条件を全て実現したという猛者もいる。

- 何時でもつながる安心感を得たい
- 毎月の通信料を数百円にしたい
- 通話料を無料にしたい
- ギガ容量気にせずテザリングしたい

1枚のSIMカードで運用する普通のスマホが満足に使えず、使いこなすとはまでは行かないまでも、盛り沢山の機能、もう少し使えるようにと、日々手古摺っている私には夢のまた夢の世界だ hi

「スターリンク」

ここからは、デュアルSIMの話とは違いますが、紙面が中途半端に余ったので、「スターリンク」について書きたいと思います。

「スターリンク」はご存じの方も多と思いますが、ロシアのウクライナ侵攻によって、一躍有名になった、米宇宙企業スペースX社 (Space Exploration Technologies Corp. …スペース・エクスプロレーション・テクノロジーズ) の衛星インターネットサービスだ、人工衛星を使った通信サービスだが、従来の高軌道衛星を使った通信に比べ、遙かに軌道が低い (地上550キロなど) 低軌道衛星を使うため、低遅延な通信が可能なのが特徴、持ち運び可能な専用の地上アンテナを使うことで通信の届かない山間部などでも高速なインターネット回線を利用出来る、ACアダプターとルーター、アンテナを接続すると自動的にアンテナが角度を調整するようになっているようで。2022年10月11日 (日本時間) から日本での提供が始められたが、東京都も導入する予定のようだ。

他にも、米アマゾンや英ワンウェブなども衛星インターネットサービスを計画しているが、イーロン・マスク氏の率いるスペースX社の「スターリンク」が大分先んじているようだ。

ただ、現在の日本では、アンテナに融雪機能があるため、PoE電圧が56Vと高くなっているためLANケーブルの固定は電気工事士の資格が必要で、工事店は電気工事業の登録のある所でないとできないとの事だ。



(2022年12月記)